

## インテリジェント機能の制限事項、設定時の注意事項。

インテリジェント機能はライブ監視の補助をする機能です。  
設置環境の状況(人及び車両等の混雑具合及び特に屋外における光量の変化、設定方法により誤動作を生ずることがあります。  
尚、本機能は 100%の検知を保証するものではありません。

### 1. モーション検知

モーション検知機能は、設定エリアを人、車両等が通過したときに検知します。  
尚、カメラ設置後に実際の運用状況を確認してから、カメラの設置角度(レンズ視野角)、設置エリアの大きさ、感度設定を修正して検知精度を高めるための調整を強く推奨致します。

### 2. カメラ妨害検知

カメラへのいたずら検知機能は、以下の妨害を検知します。カメラの向き(画角)の変更、レンズを塞ぐ妨害、フォーカス(ピント)の変更、通信妨害、塗料のスプレーなど。  
最適な感度の設定は、さまざまな監視シーンにより変わります。

図 1.1 (a)では、対象物の多くが煩雑に移動することによって、監視シーンが変化します。誤動作を減らすためには低い感度の設定が推奨されます。

図 1.1 (b) のシーンでは、殆ど背景が変わらないため感度を高に設定した方が良いと思われます。但し、感度設定を高いに設定した場合、頻繁にアラームが発生することがあります。また、低いに設定した場合は、殆どアラームが発生しないことがあります。  
上記(a) (b)以外の環境の場合は感度設定を通常に設定します。

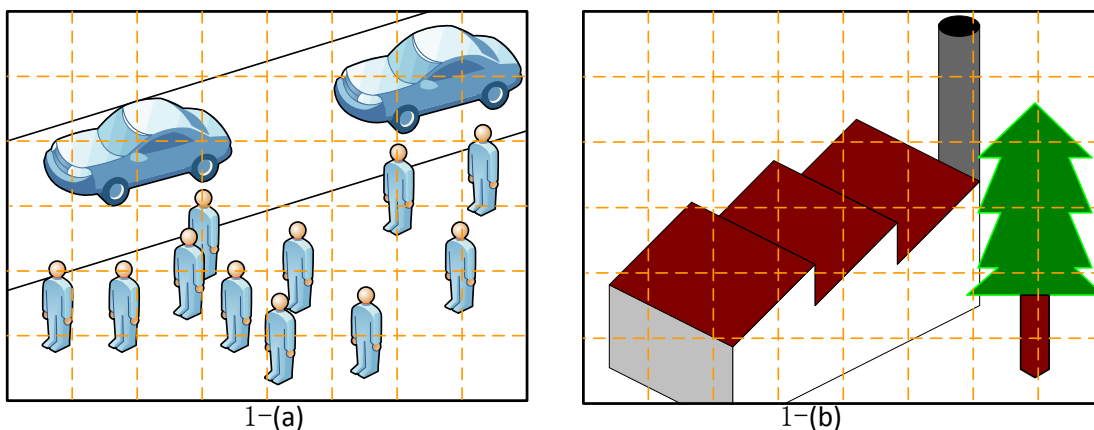


図 1.1 (a)は背景の変化が大きい場合、(b)は背景の変化が少ない(静止状態)場合。

## 条件

- (1) 監視シーンはクリアーに見えている必要があります。もしカメラが変化の少ない平坦な領域に焦点が当てられている場合(例えば青空、白い壁、暗い室内)は正しく動作しません。
- (2) いたずら検知は次の場合にアラームを発生します。
  - a. カメラが長い時間、強風を受けている場合(カメラが揺れている場合)
  - b. カメラの向き(画角)が変更された場合。
  - c. 図 1.1(a)のように多くの対象物が長時間カメラの視野内に入出入りする場合。

## 3.持ち去り検知

持ち去り検知は、あらかじめユーザが定義した監視領域を四角いボックスで表し、そのボックス内の対象物の移動を監視する機能です。持ち去り検知はボックス内の対象物が長い期間消えている(あるいはエリアが隠された)場合にアラートを発します。不適切なボックスの設定は持ち去り検知の精度に影響します。設定例は下記の図 2-a、b、c を参照して下さい。尚、同時に2つ以上の対象物を監視することは出来ません。

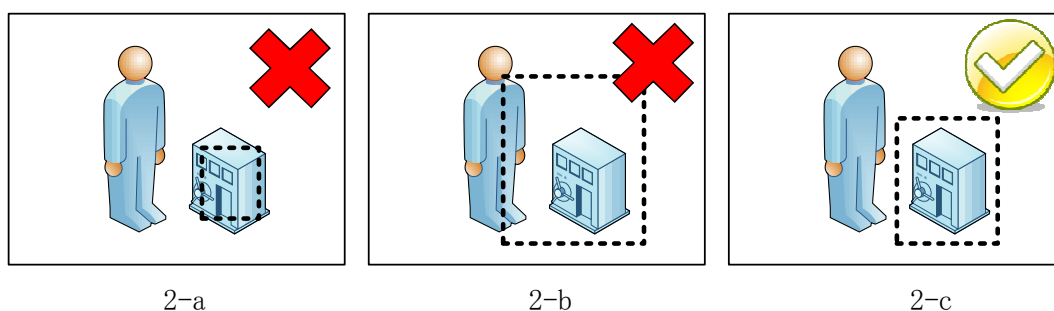


図 2-a、b は不適切な設定例。C は適切な設定例。

通常、監視ターゲットを隠したり、触れたりすることが出来にくい場所に置かれている場合は感度を高に設定します。ターゲットが時に移動される事があるケース(例えば、展覧会の絵画)は感度を低または普通に設定します。感度が高すぎる場合には誤警報をおこすことがあります。

## 条件

- (1) カメラは静止している必要があります。
- (2) ターゲットの外観は、クリアーに見える必要があります。持ち去り検知では真っ白な紙、青空、透明なガラス、暗い室内にある対象物を検出することはできません。
- (3) 小さすぎる監視領域は設定できない仕様になっております。
- (4) イベント機能をリセットする前に監視エリア内に対象物が存在するか確認してください。
- (5) 持ち去り検知の精度は速い/強い光の変化または大雨に影響されます。

#### 4.ライン通過検知

ライン通過検知は、移動している対象物を監視して、対象物が仮想ラインを交差したときにイベントとしてトリガを発します。

##### 条件

- (1) カメラは静止している必要があります。
- (2) 仮想ライン検出に必要な最小フレームレートは 10fps です。低フレームレートの場合、誤動作を生じます。
- (3) システムが起動する間、移動する対象物を背景として認識する可能性があります。この場合、監視エリアの画像が不安定(静止していない)なため、誤ったアラームを発する場合があります。
- (4) 照明効果により、検知精度に影響を与える可能性があります。たとえば、屋外の日光のもとでは、対象物の影を対象物の一部と見なされる可能性があります。
- (5) 仮想ラインを交差するチェックポイントは物体(人・車両等)の中心です。複数の対象物が重なって仮想ラインを交差した場合、仮想ライン検知は正しく動作しない場合があります。